

知多半島周辺におけるウミガメ類産卵状況及び死亡漂着情報

2008年は全国的にも多くのアカウミガメの産卵が記録され、知多半島周辺では、当園が調査を開始した1981年以降最も多い16例の産卵が確認されました(図-1)。

図からもわかるように、美浜町奥田海岸から野間海岸にかけてたくさん産卵されたことが2008年の特徴といえるでしょう。

また、知多半島東岸の三河湾側でも産卵が確認されており、1982年以来26年ぶりとなりました。

産卵された卵は、なるべく自然のまま孵化まで見守りたいので、産卵箇所には看板を設置し柵や杭で囲っています(写真-1)。

しかし、孵化した仔ガメが街路灯に引き寄せられ、海に帰れなかった事例が過去にありました。

これは、仔ガメが明るいところへ集まる習性を持ったためで、そのような場所で産卵された場合は卵の移植を行ないました(写真-2)。

〔図-1〕 産卵地点



〔写真-1〕 産卵跡に看板を設置(美浜町奥田海岸)〕



〔写真-2〕 卵の移植(美浜町若松海岸)



ウミガメの性別は、卵の時の砂の温度で決まりますが、その時期はほぼわかっています。

自然界での性比バランスをくずさないよう、性別が決まる期間はそのまま見守り(産卵されたままの状態)、その後移植して孵化は当園で行ないました。

その際も生態を重視し、暗いところで孵化させ、同じ母ガメから生まれた仔ガメ同士一緒に、産卵された海岸より放流しました。

もちろん放流は、暗くなってから行います。

放流時には、付近の小学校や放流を見たいと希望された方々に連絡し、集まった皆さんにアカウミガメのお話をした後(写真-3)、一緒に放流しました。参加された皆さんはきっと、ウミガメや自然に対して関心を持たれたことと思います(写真-4)。



〔写真-3〕 ウミガメについてのお話を聞く皆さん



〔写真-4〕 児童らによる放流

また、残念ながら死亡漂着は8例あり、種類は次のとおりです。

- アカウミガメ(写真-5):5頭
 - アオウミガメ(写真-6):2頭
 - タイマイ(写真-7):1頭
- (図-2)。

〔図-2〕 死亡漂着発見場所



アオウミガメとタイマイは亜成体でしたが、アカウミガメはすべて成体で、雄も1頭含まれています。

また、ほとんどの個体で腐敗が進んでおり、なかには白骨化している個体も見られました(写真-8)。

今後も、記録を残して行くために皆さんからいただく情報がとても重要です。

産卵はもとより、足跡を見つけたり、死体が打ちあがっていた場合(知多半島周辺)でも是非、南知多ビーチランドまでご連絡ください。



〔写真-5〕アカウミガメ(南知多町山海海岸)



〔写真-6〕アオウミガメ(南知多町グミの木海岸)



〔写真-7〕タイマイ(常滑市蒲池海岸)



〔写真-8〕アオウミガメ(常滑市蒲池海岸)